

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

| | |
|-------|------------------|
| 事業所番号 | 671200301 |
| 法人名 | 有限会社 ウェルネスさがえ |
| 事業所名 | グループホーム あしたば |
| 訪問調査日 | 平成 19 年 9 月 13 日 |
| 評価確定日 | 平成 19 年 11 月 8 日 |
| 評価機関名 | 山形県国民健康保険団体連合会 |

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月31日

【評価実施概要】

| | |
|---------------|---|
| 事業所番号 | 671200301 |
| 法人名 | 有限会社 ウェルネスさがえ |
| 事業所名 | グループホーム あしたば |
| 所在地 (電話番号) | 山形県寒河江市大字西根字石川西294番地の3 (電話) 0237-83-1622 |

| | | | |
|-------|------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 山形県国民健康保険団体連合会 | | |
| 所在地 | 山形県山形市松波四丁目1番15号 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年9月13日 | 評価確定日 | 平成19年11月8日 |

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|--------|---------------------------|
| 開設年月日 | 平成18年3月3日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 10 人 | 常勤 | 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 8.15 人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|--------|----------|
| 建物形態 | 併設/○単独 | 新築/改築 |
| 建物構造 | 木造 | 造り |
| | 1階建ての | 階 ~ 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------|----------------|------------|
| 家賃(平均月額) | 45,600円又は47,120円 | その他の経費(月額) | 350円/日、他実費 |
| 敷金 | 有()円 | ○無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | ○有(50,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/○無 |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 250 円 |
| | 夕食 | 250 円 | おやつ 100 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|---------|---------|----|-----|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 7 名 |
| 要介護1 | 6 名 | 要介護2 | 1 名 | | |
| 要介護3 | 2 名 | 要介護4 | | | |
| 要介護5 | | 要支援2 | | | |
| 年齢 | 平均 79 歳 | 最低 66 歳 | 最高 90 歳 | | |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------|
| 協力医療機関名 | 寒河江市立病院 |
|---------|---------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者一人ひとりが「ゆったりと安心して暮らせる穏やかな暮らし」を送ることができるように、職員自身もゆったりとした支援を常に心がけており、利用者のその時々のお気持ちを損ねることなく、一人ひとりの選択を尊重していく姿勢と配慮が感じられるホームです。
「外に出かけていくこと」「大切さ」「楽しさ」が職員間で十分に認識されているため、ドライブ、外食、お祭り、イベント参加など外出の機会をとらえては、利用者と職員が一緒に楽しめるような時間づくり、場面づくりにも積極的に取り組んできているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

| | | |
|------|---|---|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 応急手当を実際に行えるようにしていくための学習会や訓練について、消防署の協力を得ながら応急手当の研修が行われ、現在も継続した取り組みが行われている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | ② | 前回の改善課題に即座に組み、現在もその取り組みが継続されている。また、評価の意義を理解しており、職員全員で自己評価を行い、評価結果を基にしながら改善に取り組んでいる。 |
| 重点項目 | ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回実施しており、評価への取り組みの報告や改善された内容について報告をしている。また、要望や意見を聞き、サービスの向上に活かしている。 |
| 重点項目 | ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホール内に意見箱を設けたり、直接職員に申し出ができるような雰囲気作りに努めており、意見や要望については速やかに対応し運営に反映させている。また、外部の苦情窓口を利用時に本人・家族に説明している。 |
| 重点項目 | ⑤ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会への加入、利用者と一緒に参加する道路清掃、文化祭・イベント・花咲かフェアなどの地域行事への参加が積極的に行われており、地区の人々との交流が図られている。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|---|---|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「ゆったりと安心して暮らせる穏やかな暮らし」を理念として具体的に取り組んでいるが、地域の中で暮らし続けることを盛り込んだ理念までには至っていない。 | ○ | これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指す内容を、わかりやすく、理解しやすい形で盛り込んでいくことが期待される。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 会議や日々の業務の中でも理念を共有するための取り組みを行い、職員全員が利用者の「穏やかな暮らし」が実現できるよう、具体的ケアの実践に取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会への加入、利用者と一緒に参加する道路清掃、文化祭・イベント・花咲かフェアなどの地域行事への参加が積極的に行われており、地区の人々との交流が図られている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の改善課題に即座に取り組み、現在もその取り組みが継続されている。また、評価の意義を理解しており、職員全員で自己評価を行い、評価結果を基にしながら改善に取り組んでいる。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2ヶ月に1回実施しており、評価への取り組みの報告や改善された内容について報告をしている。また、要望や意見を聞き、サービスの向上に活かしている。 | | |

山形県 グループホームあしたば

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 月2回程度、市の窓口に出向き、他の事業所の情報を聞きにいたり「花咲かフェア」の申し込みや認知症サポーターの情報などを集めながら、サービス向上に取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の面会時は、必ず職員が利用者の日頃の状況について報告しており、金銭管理をしている場合の報告は必ず月に1度行っている。また、個々に合わせて電話での報告もなされている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ホール内に意見箱を設けたり、直接職員に申し出ができるような雰囲気作りに努めており、意見や要望については速やかに対応し運営に反映させている。また、外部の苦情窓口を利用時に本人・家族に説明している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 馴染みの職員による支援が重要であることを十分理解しており、急にいなくなるという状況を作らずに、徐々に関わる時間を減らしながら、時間をかけて交代するようにしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | グループホームの交換研修、県のリーダー研修、消防署員による救急法、日本認知症ケア学会などの各種研修案内を職員全員に回覧し、できるだけ事業所外の研修にも参加できる機会の確保を行っている。また、研修報告を通して、職員全員が学べるようにしている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内のグループホーム・特別養護老人ホーム・小規模多機能型事業所などの見学会や交換研修を通して、自分たちのサービス向上に活かす取り組みがなされている。(放尿時の消臭対策・食卓の椅子のスムーズにするための対策・利用者に対する対応など) | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | 【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | (小規模多機能型居宅介護のみの調査項目) | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者との生活の中で、季節の慣わしや生活の知恵、笹巻きづくり、生け花など利用者の方が培ってきたものを教えてもらったりしながら、お互いに支えあう関係づくりを行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人や家族から聞き取りを行って生活歴を把握し、その日その日の暮らし中で、買い物・入浴時間・散歩・食べ物などの希望を聞きながら対応している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族からの意見やかかりつけ医等関係者の意見を聞きながら、職員全員で本人らしく暮らせるよう意見交換や検討会を行い、介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 対応できないような変化が生じた場合は、家族、関係者、全職員の意見を聞き、現状に即した計画を速やかに作成している。また、変化がない場合も月1回は必ず職員全員で見直しの会議を開催している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる | (小規模多機能型居宅介護のみの調査項目) | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している | 利用前の「かかりつけ医」との関係を継続しており、通院に際しては家族や「かかりつけ医」との情報交換を密にししながら、適切な医療が受けられるように支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できる だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している | 終末期については、利用時に家族の意向や事業所の対応・方針について家族に説明を行っており、話し合いの内容は記録し職員全員が理解できるようにしている。また、状況に合わせて家族やかかりつけ医、ホームの職員で繰り返し話し合いを行う体制がある。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない | 排泄の失敗や間違いなどは、本人の気持ちを損ねることのないようさりげない誘導や支援を心がけており、また、個人情報にかかる書類は、保管場所を決めて保管している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な1日の流れはあるが、本人の希望を優先することを基本に見守りを行っており、本人の希望に合わせた入浴、起床に合わせた朝食の提供ができるように支援している。 | | |

山形県 グループホームあしたば

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者とスーパーのちらしを見て献立を考え、好みの把握や楽しみな食事メニューの作成に努めており、また、箸を渡す・配膳する・調理をする・食器を洗うなど、準備や後片付けも一人ひとりの力に合わせて参加できるようにしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 毎日声かけをして入浴日や時間を選べるようにしており、入浴を好まない利用者には、タイミングを見ながら入浴を勧めたり足浴を行っている。また、仲の良い利用者同士と一緒に入浴することもあり、楽しみながら入浴できるように支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 生け花・書道・手芸など、一人ひとりの生活歴や趣味を活かした役割がもてるよう支援しており、毎日の掃除・食事の準備・片付けなどの場面で、自然に支援されている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | ドライブ、外食、散歩、買い物などの外出支援に力を入れており、お祭りや花火の見学などについても、一人ひとりの希望を聞きながら支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。 | 身体拘束についての話し合いや研修を行うことにより、鍵をかけることの弊害が職員全員に理解されており、利用者の状況を常に見守りながら、外に出かけようとした時はさりげなく声をかけたり一緒に外出するなど、安全に過ごせる配慮と支援がなされている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | マニュアルを作成して職員への周知徹底を図るとともに、年1回の避難訓練や運営会議を通じた災害時の協力依頼が行われている。 | | |

山形県 グループホームあしたば

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分の摂取量を生活習慣から把握しており、食事やお茶の時間の摂取量を一覧表に記入し、職員全員で情報を共有している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 木材がふんだんに使用してあり、室内は畳敷きに掘りこたつがあるゆったりと過ごせる雰囲気になっており、台所やリビングは一体型になっているため食事の準備の匂いや音も自然に感じられる。また、利用者が生けた花も飾られており、居心地よく過ごせる配慮と工夫がされている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた箆笥、鏡台、椅子、お茶やご飯を毎朝供えられる仏壇の持ち込みもあり、その人らしく安心して過ごせる居室となっている。 | | |